

G-11 現代乳幼児のおかれている環境条件の考察 予2報(乳幼児と玩具)  
兵庫短大 ○池田隆子 上埜照枝 岩下留子 中西美知

目的 昨年度乳幼児のおかれている環境条件の予1報として、保育に対する学生・生徒の意識調査を実施し保育指導の手がかりをつかみ報告した。今回は予2報として物的環境——特に乳幼児をとりまく玩具に焦点をあてた。日常生活経験、なかでも遊びを通して乳幼児の心身は成長発達する。ところが時代の変遷、社会状況の影響などにより、乳幼児の生活や遊びそのものも大きく変化している。即ち経済の高度成長に伴う物質文明の豊かさ、テレビの普及によりおもちゃ自体の質、おもちゃの氾濫等、多くの問題点をもちながら大きく変わりつつある。このおもちゃの実態を調査し、問題点をさぐり、将来親として、また消費者としての立場に立つ学生・生徒に望ましい方向を考へさせる。

調査内容 1. 方法 質問紙法 2. 対象 乳幼児をもつ母親 3. 調査数 77名 4. 地域 阪神地区 明石地区 丹波地区 5. 調査項目 ①親のおもちゃに対する考え ②テレビの影響とおもちゃ ③おもちゃの創作 ④おもちゃと寝

結果 今回の実態調査の結果、親がおもちゃに対して比較的無関心であり、子どもの成長発達段階とおもちゃの関係を考えるのではなく、また、子どもの気持を考慮に入れないで知的発達のみを重視していること。また親の態度が既製品の玩具にたよりすぎ、企業側の商業ベースにのせられていること。幼児の現在もっている玩具の中に手作りがないこと、しかも手作りの玩具が極めて限られた種類であって親の独創性がなく、ひいては親の学習不足が目立つ等、問題点が多くみられた。